



国際会長 (IP) Jennifer Jones (オーストラリア)

“Building today for a better tomorrow”

「よりよい明日のために今日を築く」

アジア太平洋地域会長 (AP) 田中 博之 (東京多摩みなみ)

“Action!” 「アクション」

東日本区理事 (RD) 山田 敏明 (十勝)

「勇気ある変革、愛ある行動！」

“Innovation with Courage, Action with Heart”

湘南・沖縄部部长 (DG) 森田 幸二郎 (沖縄)

「ワイズを社会に広める基盤の再構築をする」

横浜クラブ会長 (CP) 古田 和彦

「YMCA、地域、ワイズメンと共に！」

“With YMCA, With Community, With Y's Men!”

会長 古田 和彦  
副会長 金子 功  
書記 古賀 健一郎  
会計 大高 治  
直前会長 金子 功

監事 松島 美一  
ブリテン 伊藤 誠彦  
担当主事 青木 一弘

### <今月の聖句>

青木 一弘

『神の国は、見える形では来ない。“ここにある” “あそこにある” と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ』

(ルカによる福音書 17章20～21節)

### 今月のひとこと

#### “見えない脅威”～平和と共生の視点から

大江 浩



新型コロナウイルスの国内外での感染拡大が、92の国と地域で感染者約10万1300人/死者は18の国で約3,400人(3月7日 午前4時現在)という非常事態に発展しています。WHO(世界保健機構)はまだ「パンデミック」宣言は出して

いませんが、実質的に最大限の警戒を要する事態にあることは周知の事実です。何よりも感染被害に遭われている方々やその影響を受けている全ての方々のために、一刻も早い終息を心よりお祈り致します。

全国各地のYMCAはこの新型肺炎による諸活動への多大かつ多様な影響を受けていますが、一致協力をしつつ、それぞれに緊急対応に力を尽くしています。

新型肺炎の問題は、命や健康の次元から、国家の威信と政策を超えて、国家間の入国制限やビザ効力停止など外交問題にも発展しています。人々との間でも特定の国や地域の人々へのヘイトの問題が生まれ、市民を分け隔てる「見えない壁」という恐怖と脅威をもたらしています。私たちはマイクロサイズの病原菌が地球社会を揺るがす現実と直面しています。

私は、日本キリスト教海外医療協会(JOCS)の時代のことを思い起しています。JOCSは途上国の医療過疎地にクリスチャン保健医療従事者を派遣する日本のNGOの草分け的存在(ルーツは、京都大学YMCA)です。JOCSワーカーは任地で、日常的にマラリア、結核やHIV/AIDSやハンセン病などの感染症、言わば「顧みられない熱帯病(Neglected Diseases)」と向き合い、貧困と病に加え社会的な格差や人権問題という社会的・構造的な暴力にも遭遇します。

JOCSワーカーの精神は、WHOの「アルマ・アタ宣言」(1978年)の基本理念にあります。「・・・健康とは身体的・精神的・社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病のない状態や病弱でないことではない。健康は基本的人権の一つであり、可能な限り高度な健康水準を達成することは最も重要な世界全体の社会目標である。その実現には保健分野のみならず、他の多くの社会的・経済的セクターからのアクションが必要である。」(WHOアルマ・アタ宣言)

同宣言は「健康」を精神的・社会的に捉え、また基礎的な保健ケア(Primary Health Care)のアプローチを通して全ての人々の健康(Health for All)を実現すべきであると謳った画期的な国際宣言であり、人間の命を見据える宣言でした。JOCSワーカーの使命はまさにこの実現のための働きです。

新型コロナウイルスという未知の災害ともいえるこの「見えない脅威」の只中にある今、健康の問題を、平和・共生・

## <2020年2月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B	F
12名	メ 8名 メネット 1名 コメット 0名 ビジター 1名 ゲスト 1名 合計 9名	83% (メーキャップ 2名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 現金 年度累計 切手 現金	0g 0円 0g 0円

## <3月の行事予定>

### BF、メネット

日	曜	時間	行事内容	場所
3	火	19:00	Y-Y's協議会	中央Y 中止
7-8	土		次期クラブ会長・部 役員研修会	東山荘 中止
12	木	18:00	横浜クラブ第一例会	中央Y 中止
21	土	11:00	総主事就任式	海岸教会 中止
26	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央Y

註) 中止：コロナウイルス感染予防対策として

人権の視点で捉えたいと思います。そして命の問題を精神的かつ社会的な視点から捉え、過剰反応に支配されず冷静かつ沈着な態度で、この大きな試練を乗り越えていかねばなりません。私たちの知恵と力と祈りが試されています。

## 「2月第一例会報告」

伊藤 誠彦

日時：2月11日(火) 12:00~13:00

場所：横浜とつかYMCA A404号室

出席者：青木、伊藤、メ、大江、大高、金子、齋藤、古田、松島

2月例会は11日の会員大会の昼食休憩時という変則日程で実施された。

金子ワイズの司会により開始。行事予定を確認後、協議・報告事項に入った。主たる事項は次の通り。

- 1) 次期クラブ役員等の選出：会長(古賀)、副会長(金子)、会計(大高)、監事(松島)、担当主事(青木)  
地域奉仕(遠藤)、国際・交流(大江)、会員増強(古賀)、ユース(齋藤)、ブリテン(伊藤)、広報(金子)
- 2) 部役員候補の指名：書記(横浜、伊藤)、会計(沖縄、伊藤)、地域Yサ(八景、有光)、会員増強(鎌倉、千葉)、国際・交流(つづき、今城)、ユース(厚木、佐藤)
- 3) 部大会参加予定者：青木、金子、古田
- 4) 3月例会卓話は大江ワイズによる：「中村哲一『天、共に在り』草の根の人々とともに生きて」
- 5) 横浜クラブ90周年記念行事日程：2020年12月12日(土)
- 6) 4月例会のビジター：森田部長(例会後の予定は確認中)
- 7) 例会弁当番：3月(古田)、4月(伊藤)
- 8) その他：生井館長より中央Y運営委員にワイズ代表に入って欲しい旨の要請あり

## 横浜 YMCA 会員大会報告

古賀 健一郎

2月11日(火・祝) 10:00~14:00、横浜YMCA会員大会が湘南とつかYMCAで開催された。(維持会員・YMCA職員を含む)約300名の参加者があった。会員相互の親睦・交流を深めるとともに、平和について考え、学び、そしてYMCAの諸活動について理解を深めた。

①「オープニング(開会)」は、讃美歌「キリストのへいわ」を皆で賛美した。司会者がマタイによる福音書5章9節とコリント信徒への手紙2 5章17節~18節を朗読した。そして、相賀昇牧師(田園都筑教会)にお祈りしていただき、鈴木茂大会委員長が開会礼拝で挨拶された。

②「平和のメッセージ」は、関田寛雄牧師(日本基督教団牧師)による「『平和をつくる人は幸いである』~和解の務めに生きる~」と題して、平和への力強いメッセージをいただいた(先生のメッセージの詳細は後述を参照)。その後、讃美歌「幾千万の母たちの」を皆で賛美し、そして「フランチェスコの平和の祈り」を唱和した。

③「平和の歌を歌おう」は、染谷謙一委員の指揮、今城宏子委員のピアノ、石川義彦委員のギター、ソングリーダー、保育職員、ユースの方々のリードで、関田先生も作成委員をされていた日本YMCAの基本原則を歌詞にした、全国のYMCAで広く歌われている「愛すること、仕えること」と、キャンプや保育園などの全国のYMCAで親しまれ、最もよく歌われている「ね」を皆で振付けを交えて楽しく歌った。

④広島ピースキャンプ報告(YMCAアフタースクールの子どもたち)、国際青少年平和セミナー報告(YMCA専門学校生)では、広島を訪問して感じた平和への想いがしっかりと伝わってきた。その後、維持会員増強キャンペーン説明・アピール(岸宗克明委員)と続き、工藤誠一横浜

YMCA理事長、佐竹博副総主事の挨拶をもって午前中の一階ホールでのプログラムを終えた。(総合司会は千葉裕子委員、後藤美紀委員が担当)

⑤昼食は誕生月にグループに分かれての食事は、初めての方と知り合うきっかけともなり、アンジュのパンとレザン



の缶ドリンクで、皆で楽しい時を過ごした。

⑥ 2 階の各教室では保育事業、語学事業、高齢者事業の他、専門学校等各事業部が活動を紹介するコーナーやレクチャー、ワークショップを展開したが各教室とも満員の盛況だった。各事業の平和のアクティビティーは、工夫が凝らされていて、YMCAの多様性を知っていただく機会となった。ワイズメンズクラブ湘南・沖縄部もこの大会をPRの良き機会ととらえクラブ・バナーやパンフレット等を展示して紹介に務めた。

横浜クラブ参加者：青木、伊藤、林、大江、大高、金子、古賀、齋藤、古田、松島

## 「関田寛雄牧師の平和のメッセージから」

### 『平和をつくる人は幸いである』～和解の務めに生きる～

古賀 健一郎



関田先生は下記のように語られました。(メッセージの抜粋)

戦後の困難な時代で1948年より、私は横浜YMCAの職員として、「少年部の再建」に努力した。それ以来これまでのYMCAとの長きにわたるつながりは、私にとっての青春の足跡であり、大変懐かしく思い出に満ちていた。そして私自身の生涯の方向性を示してくれるような運動がYMCAであった。

太平洋戦争当時、「万邦をして各其の所を得しむるにある」との外交方針の下、「アジア諸国の解放戦争だ！アジア民族を植民地主義から解放するんだ」と軍国少年の私も、多くの青年たちも燃えた。しかし、国が欺瞞の情報を流し国民を欺いてきた、その戦争に負けた。建前と本音が全く違う戦争だった。私は絶望し目標を失った。そんな時に学校の恩師に「どんな時代にあっても変わらない真理があると聖書は言う。今、君たちはわからなくなっているが、いつか真理があらわれてくる。今は忍耐して勉強しよう」との言葉に、前向きに生きようと思った。

戦後になって、どうしたらいいかを考えていた時に私が巡り合ったのが「新憲法」だった。そこに、「日本が悔い改めて、新しく生きていこう、平和を追求するために軍隊をもたない」とあった。新しく再出発するのはこれだと思い、憲法9条こそが、戦後の日本が生きていく拠り所だと確信した。これがあるからこそ、強い軍隊をもつ大国に対して、「平和でいこうよ、共に生きていこうよ、和解しようよ。」とのメッセージを日本こそが発することが出来る。しかし、現政権下での政策は変わりつつあり、自衛隊の海外派遣など、どんどん戦争ができる国になっている。広島、長崎で学んだ教訓、福島原発の悲劇、それを踏まえて核兵器を廃絶し、「共に生きる世界を築いていこう」とのメッセージを日本こそ発しなければならない。そして貴重な平和のメッ



関田牧師のメッセージに聞き入る参加者

センジャーとしての役割を担っていくべきだ。

1910年、日本政府は強制併合という形で朝鮮半島を植民地化し、皇民化政策により、弾圧、搾取、差別の限りを尽くしてきた。私は、在日韓国朝鮮人の方々が多く住んでおられる川崎地域で、教会の牧師として働いてきた。日本人社会はかつての朝鮮人、韓国人の苦しみを理解しなければならない。

『和解』とは相手の悲しみ苦しみを分かち合って、一緒に苦しんで、一緒に悩みながら分かち合って責任を共にするところまでいかなければ成就しない。単に友好レベルで終わるのではなく、それぞれの課題を双方で担い合い、解決に向けて共働する所に至ってこそ、「和解の努め」が全うされる。

山田洋次原案のある映画です。(渥美清演じる)男が、戦争が終わって軍隊から帰ってきて、仕事がないので担ぎ屋をやっていた。駅前の小さな飲み屋の女性と仲良くなり、「一緒に所帯をもとう」とプロポーズしたら、彼女は答えて言った「あんた何も知らないでしょう。私はね、戦争が終わって、貧しくて苦しくて飢えて、“汚らしい相手”をしたのよ。そんな女でもいいの？」すると(渥美清演ずる)男は言った。「“家庭”っていうのはよお、“未来”について語ることじゃねえのか！」そこに、「相手の悲しみを癒して、共に生きていこう」との男の姿をみた。

和解と平和な世界をつくる為に、痛みを分かち合って癒していく、共に生きていく世界をつくっていくというYMCAの課題がそこにある。

(追記)

会員大会終了後、91歳の関田先生と雑談した時、先生は「この混迷の時代にあって、YMCAの存在と運動は大切ですね！今日はいろいろな方々と楽しくお話しができ、本当に嬉しかったです。ふるさとに帰ってきたようです」…と。



親交が長い  
金子ワイズと関田牧師

## 「第88回YMCA—Y’s 協議会中止」

金子 功

去る3月3日(火)に予定されていた第88回Y—Y’s協議会は横浜YMCAの新型コロナウイルス感染予防対策の配慮から中止されました。今回は金沢八景クラブが担当クラブとして以下の協議・報告事項が準備されておりましたことを報告します。

協議事項：EMC委員会の活動報告と Challenge!2022 に向けて

報告事項：

横浜YMCAより

- 2020年度横浜YMCA全体事業方針・計画
- 横浜YMCA会員大会
- ピンクシャツデー報告

ワイズメンズクラブより

- YMCA—Y’s合同新年会
- 東日本区 Challenge!2022 シンポジウム報告
- 各クラブトピックス

次回協議会予定：6月2日(火)担当；横浜つづきクラブ

## 第二例会報告

大高 治

日時 : 2月26日(木) 17:00~19:00

場所 ; 中央YMCA812

出席者 ; 青木、大高、金子、古賀、古田

協議・確認・検討事項

### 1. 行事予定

- 新型コロナウイルス対策が国を上げての急務となった。3月の行事は中止とする。ただし、3月26日予定の第二例会は、今後の情勢をみて開催如何を判断することとした。(国の新型コロナウイルス対策を受けてYMCAの3月の諸行事は中止となった。学校も休校。卒業式は卒業生のみで行われる。よって、当クラブもYMCAの方針に従うことが望ましいと判断した)

### 2. 協議・報告事項

#### 1) 3月の例会は中止とする。

- そのため大江ワイズによる卓話は4月に、4月においてお願いしていた秋元先生(恵泉女学院名誉教授)の卓話は順送りです。5月の第一例会にして頂けるよう会長が折衝することになった。

#### 2) 4月例会への部長訪問には森田部長、伊藤書記が来訪予定である。

#### 3) キャビネットの整理結果

- ブリテンは1981~2009までハードコピーがあった。ただし歯抜けがありそう。青木主事に確認をお願いした。
- 2015以降のブリテンはPCにストックされている。これらもハードコピーを撮る。

#### 4) 5月は例年の上郷森の家での1泊研修を取り止め、通常の例会とする。上記1)から卓話のある例会とする。なお、90周年行事に関する打ち合わせを必要があれば例会以外の時間も取って検討を進める。

#### 5) 6月の例会では、90周年行事の内容及び予算を詰めること、総会の資料作りに取り組む。

- 大阪長野クラブ及び新しくDBCを締結予定の熊本スピリットクラブの招待。

- IBC(タイ、シンガポール、スリランカ、基隆)招待如何の確認。

- 押川ワイズによる礼拝の確認。

#### 6) その他

- 次期会長の古賀ワイズから、90周年事業は12月だけでなく、それに至る各月において歴史の学びなどを取り入れた。千葉クラブの高田ワイズにはその意味で卓話をお願いしたい。また、90周年記念に参加して頂ける。

- 来年度の部方針の一つとして「クラブの力を高めるため、複数のクラブによる行事の推進」を掲げたいと次期部長(古田)は考えているとの発言があった。

2月11日(火)に「平和をつくる人は幸いである〜和解の努めに生きる」というテーマで「横浜YMCA会員大会」が開催され、303名の方々が参加いたしました。オープニングは賛美や聖書と田園都筑教会の相賀昇牧師の祈りでスタートし、関田先生によるメッセージでは、戦時中の日本が行ってきたことから、和解とはどういうことか。戦争が私たちに及ぼしたことや日本の北東アジアの平和に対する責任にも触れ、「平和をつくるためには過去の痛みや悲しみと向き合い、抑圧されている人と連帯していくことも大切であること。」また、横浜YMCAの少年部の時の話や、最後はYMCA会員へのすすめ、までお話しくださいました。「平和の歌を歌おう」では、皆で、楽しく平和をおもう時間となりました。また、平和のメッセージでは、広島ピースキャンプに参加したアフタースクール子どもたちからの報告と国際青少年平和セミナーに参加した専門学校生と留学生からの報告もあり、それぞれが感じ体験した平和へのイベントについての報告となりました。

午後は、各事業による「平和」とつながるアクティビティが行われ、世代を問わず参加者が楽しみながら体験、交流し、皆で平和を願う気持ちを一つにした大会となりました。大会を実施するにあたり、多くの皆様のご協力を頂き無事に終えることができましたことを感謝致します。

### ◆ピンクシャツデーの報告

2月26日(水)に開催を予定していたピンクシャツデー・ファイナルイベント(新都市プラザ)は、パネル展示のみの開催となりました。しかし、イベントの中止によりピンクシャツデー自体がなくなる訳ではありません。今後もそれぞれの可能な方法で、いじめ撲滅に取り組んでいきたいと思えます。また、ピンクシャツデーを定着させ、子どもたちの未来のために、繋がり、行動するYMCAの活動をモデルとして広げていきたいと思えます。皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

### 3月例会プログラム

3月度の第一例会は、新型コロナウイルス感染予防への配慮から中止することにいたしました。

### 4月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
9	火	18:00	横浜クラブ第一例会、部長公式訪問	中央Y
18	土	14:00	第3回部評議会	中央Y
23	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央Y

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA青木一弘にご連絡下さい。

メール [aoki\\_kazuhiro@yokohamaymca.org](mailto:aoki_kazuhiro@yokohamaymca.org)

電話 045-661-0080



担当主事 青木 一弘

◆横浜YMCA会員大会のご報告

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★